

未来を開く

長井市立長井北中学校 No69 令和5年 1月12日

「入試シーズン」へ突入!

毎年訪れる「入試シーズン」。しかし、初めて迎える試練の時。自分の「力」で乗り越え、さらなる「成長」を、と切に願う。

令和4年度3学年保護者一同

Infinity

無限の可能性～

新しい年を迎えると同時に、いよいよ今年度も「入試シーズン」の到来です。毎年のことですが、ピーンと張り詰めた空気、身の引き締まる思いがします。

13日(金)には、1、2年生による恒例の「3年生を励ます会」も予定されています。

これからの大まかな流れ

ちょうど今は、私立高等学校「推薦入試」の時期になります。

推薦入試を受験する皆さんと面接練習を行いました。良い表情で、「志望動機」や「高等学校で頑張ること」などを、しっかりとそしてはきはきと述べてくれました。

さて、私立高等学校「推薦入試」が一段落すると、1月末から2月初旬にかけて、今度は、私立高等学校「一般入試」が行われます。専願と併願に分かれます。入試日は高等学校により異なります。

2月上旬にはその結果がわかり、さらに同じ時期に、公立高等学校「推薦入試」(今年度は2月2日(木))も行われます。

そしていよいよ3月7日(火)、公立高等学校「一般入試」が行われます。



悩みに悩んで選択する

小・中学校は義務教育です。住んでいるところにより「学区」が定まっています、入学する学校は原則として住所で決まります。

ところが、高等学校は義務教育ではありません。興味・関心や将来の見とおしなどをふまえ、それぞれの「責任」で選択することになります。したがって、どの高等学校を選択するのか、本人をはじめ、各ご家庭での話し合いがとても重要になります。最後までさまざまな観点から十分に検討してほしいと思います。

最終的には、自分の意志で決定し、その結果には自分で責任を持たねばなりません。

悩みに悩み抜いて決断・決定したことは、後々きっと豊かな恵みをもたらすことになるでしょう。



早めに内定する意味とは

推薦等で、早めに内定をいただく3年生に一言。

前述のような入試日程をふまえると、当然のことながら、進路の内定時期に「個人差」が生じてきます。それはそれで仕方のないことですが、内定の早い遅いに「一喜一憂」してはなりません。いずれ4月になれば、また全員が、同じスタートラインに立つことになります。そのことをしっかり肝に銘じておいてほしいのです。

さらに、内定後の生活が非常に重要です。これから4月まで2か月半以上ありますが、この期間の生活が高等学校生活のスタートに直結していきます。4月からのスタートに向けた大切な準備期間であり、助走期間です。この期間は、これまで以上に「目標」を持った自分で自分を律する生活が要求されます。

これまでの先輩たちの状況を振り返ってみれば、この時期、安泰しすぎ、あまりにもたるみすぎて、高等学校のスタートでかなり苦勞した先輩、中には、問題行動で内定を取り消されたことも過去にはあったと聞いています。

早めに内定する(した)ことは、それはそれで結構なことですが、決して人生の成功者になったような「錯覚」を持たないようにすることが重要です。



せっかく苦勞して自分の「力」で勝ち取った「しあわせの未来を開く『切符』」を無駄にしてほしくはないのです。学習はもちろんのこと、健康や生活などさまざまな面で準備を整えていきましょう。

心のとびら

受験生に贈る
「勇気が出る」
言葉



▶ 小さなことを重ねることが、とんでもないところに行くただひとつの道。(イチロー：大リーガー) ◀

▶ "He can who thinks he can, and he can't who thinks he can't. This is an inexorable, indisputable law." できると思えばできる。できないと思えばできない。これは、ゆるぎない絶対的な法則である。

(パブロフ・ピカソ：スペイン出身の20世紀最大の芸術家) ◀



▶ 誰よりも3倍、4倍、5倍勉強する者、それが天才だ。(野口英世：福島県出身の細菌学者) ◀

▶ 「入試のプレッシャーに負けない自信。明確な根拠のある自信。それを得るためには、ひたすら勉強するしかない」(「ドラゴン桜」の主人公 桜木健二) ◀

